

## 2025 (R07) シカ年度 植生モニタリング実施結果（林野庁事業）

2025 年度に実施した調査業務のうち、林野庁担当の森林調査について、実施概要と結果速報をまとめた。第4期エゾシカ管理計画におけるモニタリング調査の構成を踏まえ、表-1 に調査のスケジュール一覧を示した。

**表-1.第4期知床半島エゾシカ管理計画のモニタリング項目と実施内容・実施計画  
(植生関連)**

No.	評価項目	実施主体	モニタリング項目	調査地	植生タイプ	第4期計画期間					基本的な考え方など
						2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	
V01	環境省	簡易的な手法による指標種の回復量調査	知床岬	草原/	○	○	○	○	○	○	毎年実施 ルシャは他調査(V03等)と合わせて実施
			ルサ-相泊	草原	○	○	○	○	○	○	
			幌別-岩尾別	草原/	○	○	○	○	○	○	
			ルシャ	草原/		○			○		
V02	林野庁	植生影響調査 (森林植生、草原植生)	知床岬	森林		○				△	林床・稚樹・下枝は5年に2回程度(△)、毎木は1回実施。変化の少ないルシャ地区は5年間隔とする
			ルサ-相泊		△		○				
			幌別-岩尾別			○			△		
			ルシャ					○			
V03	環境省	知床岬 幌別 ルシャ	知床岬	草原	○		○		○		知床岬は隔年、幌別は5年間隔程度
			幌別					○			
			ルシャ			○			○		
V04	植生	林野庁	知床岬	森林		○					※エゾシカの影響からの回復が進んだため、長期的な変化を追うために5年に1回程度実施
			幌別			○					
			幌別-岩尾別		○	○	○	○	○	○	100平米運動地ほか
V05	斜里町		知床岬	草原	○		○		○		隔年程度。他調査(V03等)と合わせて実施
V06			ルサ-相泊						○		
V07	環境省	エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	幌別-岩尾別	草原							各調査区ともに終了
			知床岬		○		○				
			ルサ-相泊								
V08	広域調査	林野庁	植生影響調査 (森林植生)	全 域 の 越 冬 地 ( 標 高 300m 未 満 ) 、 標 高 300 ~ 600m	森林	調査計画を全体に調整して毎年 10~20 区を調査					基本的に5年間隔で実施 ※一部の変化が少ない調査区はモニタリング優先度を下げて予備調査区とする
						25 区	16 区	11 区	10 区		

\*各調査区では【E02 土壤浸食状況広域調査】についても合わせて実施する。

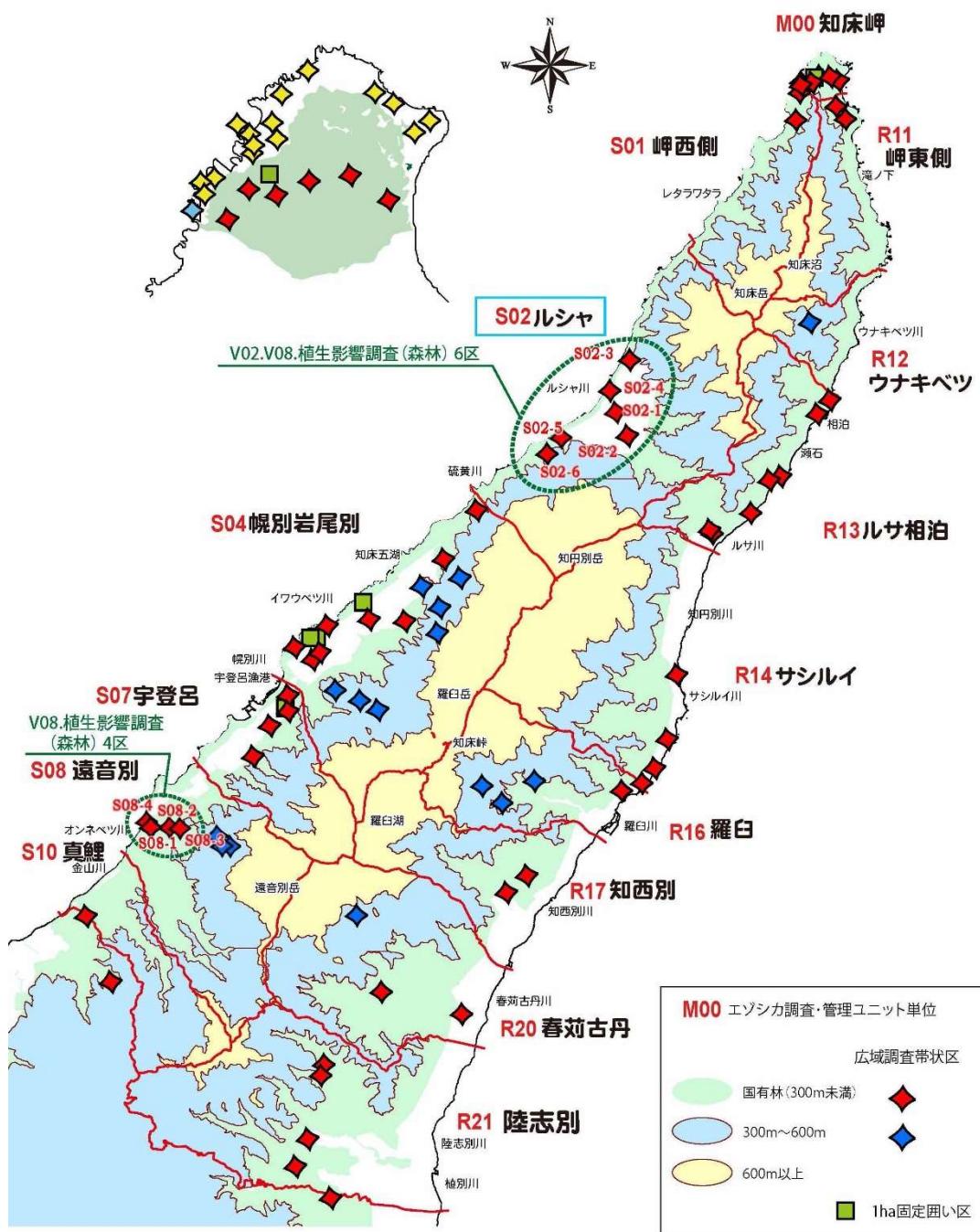
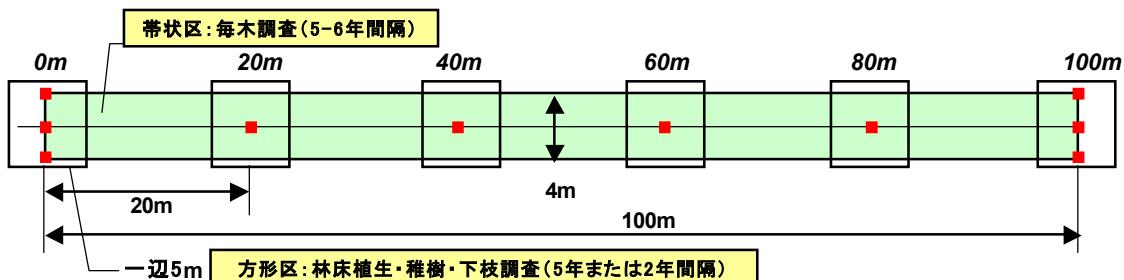


図-1. 知床半島全域における森林植生モニタリング調査区の位置と今年度の調査区



広域森林調査の基本構成 (林床植生・稚樹・下枝については6方形区内で実施)

## 広域調査：半島全体における植生の状況とエゾシカの影響の把握

知床半島全域をユニット区分して、森林植生に全70調査区を設定している。5年間隔のモニタリングを基本として、100m×4mの固定帶状区において立木・稚樹・下枝・林床植生について生育種とシカの食痕を調査している。

今年度は、ルシャ地区と遠音別地区の10区において実施した。ルシャ地区は個体数調整地の対照地としての位置づけで捕獲は実施されておらず、エゾシカの高密度状態が維持されている。遠音別地区は強い採食圧を受けて被度が低下していたが、10年前からエゾシカ密度が低下し、植生の回復傾向が見られている。

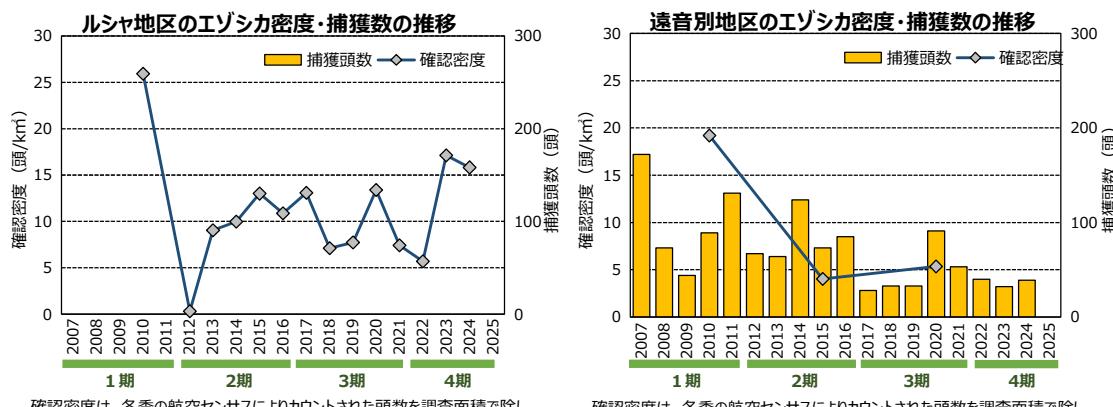


図-2. 対象地区のエゾシカ密度・捕獲数の推移

ルシャ地区と遠音別地区的稚樹・下枝・林床植生の結果を過去の推移と合わせて表-2にまとめた。

表-2. ルシャ地区と遠音別地区的結果概要と推移

調査区	下枝被度(%)					稚樹本数					ササ被度(%)					ササ高さ(cm)					林床種数				
	2012 -14	2015 -16	2018	2020	2025	2012 -14	2015 -16	2018	2020	2025	2012 -14	2015 -16	2018	2020	2025	2012- 14	2015- 16	2018	2020	2025	2012 -14	2015 -16	2018	2020	2025
<b>ルシャ地区</b>																									
S02-1	0.57	0.14	0.17	0.06	0.06	0	0	0	0	0	19.2	20.8	17.5	19.8	19.8	49.8	52.8	43.7	45.7	46.8	83	97	84	99	90
S02-2	0.12	0.00	0.00	0.08	0.12	0	0	0	0	0	91.7	95.0	92.5	98.3	82.5	137.5	147.7	153.7	148.5	136.7	44	48	43	37	32
S02-3	0.00		0.02	0.01	0.17	0		0	1	1	0.2		0.0	0.2	0.0	8.0		20.0	15.0		81		91	96	76
S02-4	0.00		0.13	0.06	0.06	0		0	0	0	0.0		0.0	0.0	0.0	13.0		24.0	4.0		50		54	43	40
S02-5	0.17		0.02	0.07	0.02	0		0	1	0	30.9		17.5	13.4	1.4	36.3		36.0	27.8	18.3	66		60	58	78
S02-6	0.37		0.02	0.17	0.29	0		0	0	0	14.5		17.5	15.8	4.8	38.0		54.5	46.3	48.8	56		41	46	39
<b>遠音別地区</b>																									
S08-1	0.00			0.67	0.78	0			3	4	1.4			0.7	2.0	17.5			28.8	50.3	72			72	68
S08-2	0.01			0.07	0.57	0			12	10	25.0			12.5	14.2	65.4			77.8	73.3	59			53	44
S08-3	0.00			1.85	2.45	3			2	4	11.5			12.2	9.2	56.3			65.8	58.2	56			54	39
S08-4	0.00			1.67	1.68	15			28	40	5.5			9.3	10.3	28.2			68.0	50.7	69			62	56

ササ被度はルシャ地区では1地区（S02-2、オクヤマザサ）で82%と高かったが、それ以外の調査区では20%未満で推移しており、やや低下傾向にあつた。遠音別地区ではササ類はほとんどないが、わずかに増加する傾向がある。



S02-2 の林床



S08-1 の林床

広葉樹の下枝や稚樹は、ルシャ地区ではほとんど見られないまま推移している。遠音別地区では回復傾向で、2025年もほとんどの調査区で増加していた。増加している稚樹のほとんどはシウリザクラやキタコブシなどの萌芽由来のものだった。遠音別地区では毎木調査で確認される広葉樹小径木（胸高直径5cm未満）の本数も増加傾向にあった（特にキタコブシ・ホオノキ等）。

林床の嗜好種はS08-1ではこれまでと同様に比較的多くが確認された。

各調査区の土壤流出状況については、これまで同様ほとんど流出は見られなかった。



S08-4 のシウリザクラ稚樹



S08-3 のキタコブシ萌芽



S08-1 の嗜好種エンケイソウ類・チシマアザミ

